

2016年度 後期

# 東北大学会計大学院アンケート実施報告書

*Toboku University Accounting School*

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

## 1. はじめに

東北大学会計大学院は2005年4月に国立大学法人では初めての会計専門職大学院として開設された。本大学院の目的は、グローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し、将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである。本大学院での教育の理念は、会計分野の知識だけでなく、経済や経営、IT、法律、倫理といったこれからの社会で会計の専門家として活躍するために求められる知識と素養を修得することである。この理念を達成するため、私たちは、社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育へと反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら、より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている。本会計大学院の理念に鑑み、私たちは、会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくためのひとつの手段として、毎 Semester 終了後にアンケートを実施している。過去のアンケートは、「アンケート実施報告書」として会計大学院のWEBサイトで公開している<sup>1</sup>。

私たちがこの報告書を公表する意図は、東北大学会計大学院への入学希望者や、学生の主要な就職先となる監査法人・会計事務所・企業・官庁の方々に、本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。この調査報告書の公開によって、本大学院の卒業生が高い意欲をもって学習に取り組んでいることを示すことができると考えている。

また、私たちは、このアンケート調査報告書を在学生在が教員に対して発信したメッセージと捉えている。今後とも、私たちはアンケートを通じて改善すべき点を見だし、質の高い教育サービスを提供できるよう努力していきたいと考えている。アンケート結果についてご意見等をいただければ幸いである。

本会計大学院では、前回の認証評価の結果や会計専門職をめぐる社会的状況をふまえ、2015年度より修了要件の変更をも含む大規模なカリキュラムの改訂を実施した。2016年度末で終了する学生の多くは新カリキュラムのもとで学習しており、今回のアンケート結果はカリキュラムの改訂を評価するための資料になると考えられる。

2017年4月

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

---

<sup>1</sup> <http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/keiji2017a.html>

## 2. 実施方法

本報告書の対象となるアンケートは、2017年1月7日（土）から1月27日（金）の間に受講者に配布・実施された。アンケートの種類は以下に示す通りである。

- ①「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」（巻末資料 1）
- ②「会計大学院の授業に関するアンケート」（巻末資料 2）

両アンケートともに無記名であり、「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」は1学生につき1回限りの回答とした。「会計大学院の授業に関するアンケート」は履修者が5名以上である講義を対象とし、学生は受講している講義ごとに回答を行っている。なお、講義担当教員の希望があった科目については、履修者が5名未満の場合でも実施している。

本報告書では、まず「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」の集計結果から、本会計大学院の教育システム全般に関する分析結果を示して、問題点を明らかにし、今後の対応について述べる。続いて、「会計大学院の授業に関するアンケート」の結果を集計し、今semesterに開講された科目について、その教育内容・教育方法全般に関する分析を行い、その問題点を明らかにし、今後の対応を検討する。なお、本報告書では、アンケートにより得られたデータを可能な限り定量的に分析したいと考えている。

「会計大学院の授業に関するアンケート」の科目毎のアンケートの集計結果（アンケート質問項目18の自由質問を含む）と自由記入欄の記載内容は担当教員に原文を直接報告している。ワークショップ委員会では、各教員がこれを通じて次年度以降の講義内容の充実に資することを期待している。

### 3. 「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」の集計結果について

#### 3.1. アンケートの実施状況

本アンケート用紙は2016年度後期に開講された科目のうち、多数の会計大学院学生が履修する「管理会計1」（履修者19名）で配布・回収され、この科目を履修していない学生についてはワークショップ委員会が配布・回収を行った。回収数は27である（ただし、項目によって無回答の場合もある）。会計大学院学生の約6割に相当するため、アンケート結果には会計大学院学生の総意がある程度反映されていると考えられる。

#### 3.2. 設問ごとの集計結果と推移

以下では、それぞれの設問についての集計結果と、直近8年度分の推移を示す。なお、全項目の集計結果については巻末資料を参照されたい。

設問1（表は未掲載）は受講者属性を問うものであり、27名の回答者のうち、14名が公認会計士コース1年生であり、9名が公認会計士コース2年生であり、4名が会計リサーチコースであった。したがって、全体としてのアンケート回収率は6割程度であるが、当該アンケートの結果には、各コースおよび各学年の意見がバランス良く反映されていると考えられる。

設問2：基礎、展開、実践・応用の科目配置は適切だと思いますか。

選択項目	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
適切である	26.19%	50.00%	39.47%	35.71%	61.90%	65.22%	22.22%	44.44%
ほぼ適切である	45.24%	40.00%	31.58%	35.71%	28.57%	17.39%	66.67%	40.74%
どちらともいえない	19.05%	5.00%	26.32%	17.86%	0.00%	8.70%	11.11%	11.11%
やや不適切である	7.14%	5.00%	2.63%	10.71%	9.52%	8.70%	0.00%	0.00%
不適切である	2.38%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	3.70%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	42	20	38	28	21	23	18	27

設問3：セメスター間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか。

選択項目	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
適切である	21.43%	31.58%	18.42%	31.03%	55.00%	47.83%	44.44%	37.04%
ほぼ適切である	28.57%	26.32%	23.68%	31.03%	30.00%	21.74%	38.89%	37.04%
どちらともいえない	28.57%	15.79%	18.42%	20.69%	10.00%	17.39%	5.56%	14.81%
やや不適切である	19.05%	15.79%	28.95%	13.79%	5.00%	8.70%	0.00%	7.41%
不適切である	2.38%	10.53%	10.53%	3.45%	0.00%	4.35%	11.11%	3.70%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	42	19	38	29	20	23	18	27

設問4：オフィスアワーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数は。

選択項目	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
5回以上	0.00%	25.00%	10.53%	6.90%	13.04%	21.74%	5.56%	18.52%
4回または3回	4.76%	10.00%	2.63%	17.24%	13.04%	13.04%	16.67%	3.70%
2回	16.67%	0.00%	10.53%	3.45%	4.35%	4.35%	5.56%	7.41%
1回	11.90%	10.00%	10.53%	27.59%	13.04%	21.74%	16.67%	18.52%
利用しなかった	66.67%	55.00%	65.79%	44.83%	56.52%	39.13%	55.56%	51.85%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	42	20	38	29	23	23	18	27

設問5：セメスター開始時の個人面談は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか。

選択項目	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
役に立った	23.81%	40.00%	23.68%	13.79%	60.00%	69.57%	38.89%	40.74%
まあまあ役に立った	47.62%	5.00%	36.84%	37.93%	25.00%	21.74%	44.44%	33.33%
どちらともいえない	26.19%	30.00%	23.68%	24.14%	10.00%	4.35%	5.56%	7.41%
あまり役に立たなかった	2.38%	5.00%	7.89%	17.24%	0.00%	0.00%	5.56%	11.11%
役に立たなかった	0.00%	20.00%	7.89%	6.90%	5.00%	4.35%	5.56%	7.41%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100%	60.00%	100%	100%	100%
総数	42	20	38	29	20	23	18	27

設問 6 : GPA によって学生の能力は適切に評価できると思いますか.

選択項目	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
適切である	7.14%	25.00%	10.53%	24.14%	18.18%	52.17%	33.33%	11.11%
ほぼ適切である	30.95%	15.00%	23.68%	17.24%	45.45%	4.35%	27.78%	44.44%
どちらともいえない	38.10%	55.00%	34.21%	41.38%	27.27%	26.09%	22.22%	18.52%
やや不適切である	14.29%	5.00%	18.42%	10.34%	9.09%	13.04%	11.11%	14.81%
不適切である	9.52%	0.00%	13.16%	6.90%	0.00%	4.35%	5.56%	11.11%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	42	20	38	29	22	23	18	27

設問 7 : 受験のための自主学習には 1 日平均何時間くらい掛けていますか.

選択項目	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
5 時間以上	34.15%	40.00%	43.24%	35.71%	25.00%	27.27%	44.44%	55.56%
4-5 時間	21.95%	5.00%	10.81%	17.86%	15.00%	18.18%	5.56%	11.11%
3-4 時間	9.76%	25.00%	8.11%	10.71%	15.00%	18.18%	11.11%	7.41%
1-3 時間	12.20%	5.00%	24.32%	17.86%	15.00%	13.64%	11.11%	0.00%
1 時間未満	21.95%	25.00%	13.51%	17.86%	30.00%	22.73%	27.78%	25.93%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	41	20	37	28	20	22	18	27

注) 「1 時間未満」の項目は 2010 年度アンケートまでは「していない」であった.

設問 8 : e-mail, HP を用いた連絡システムは役に立ちましたか.

選択項目	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2016
役に立った	58.62%	57.14%	60.00%	71.05%	55.17%	55.00%	60.87%	74.07%
まあまあ役に立った	41.38%	23.81%	35.00%	23.68%	31.03%	35.00%	21.74%	14.81%
どちらともいえない	0.00%	16.67%	5.00%	5.26%	13.79%	5.00%	13.04%	3.70%
あまり役に立たなかった	0.00%	2.38%	0.00%	0.00%	0.00%	5.00%	4.35%	3.70%
役に立たなかった	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	3.70%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	55.00%	100%	100%
総数	29	42	20	38	29	20	23	27

設問 9 : 在学中の受験を考えていますか.

選択項目	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
考えている	71.43%	63.16%	59.46%	48.28%	55.00%	47.83%	61.11%	59.26%
まだ決めていない	9.52%	10.53%	10.81%	13.79%	20.00%	21.74%	16.67%	3.70%
考えていない	19.05%	26.32%	29.73%	37.93%	25.00%	30.43%	22.22%	37.04%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	42	19	37	29	20	23	18	27

設問 10 : OB 会について

選択項目	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
賛成	57.14%	80.00%	78.38%	67.86%	65.00%	86.96%	64.71%	80.77%
反対	2.38%	5.00%	2.70%	10.71%	10.00%	4.35%	5.88%	3.85%
分からない	40.48%	15.00%	18.92%	21.43%	25.00%	8.70%	29.41%	15.38%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	42	20	37	28	20	23	18	26

### 3.3. 自己評価と今後の課題

ここでは、設問2から10の集計結果をもとに、問題点を抽出するとともに、対応を検討する。

設問2（基礎、展開、実践・応用の科目配置）については、これまでと同様に、アンケート時に「基礎」・「展開」・「実践・応用」の科目分類表を配布し、これを見ながらアンケートに回答をしてもらった。「適切である」と「ほぼ適切である」の合計は85%程度である。なお、2016年度に「適切である」と回答した学生の割合は44%であり、2015年度の22%に比べて増加している。これらを踏まえると、現行の科目配置のバランスは概ね適切であると考えられる。

設問3（セメスター間の開設授業科目のバランス）については、「適切である」と「ほぼ適切である」の合計が74%程度となっており、セメスター間のバランスは概ね適切であると評価できる。ただし、「どちらともいえない」に回答した学生の割合も15%程度あり、今後も継続してセメスター間で開設授業科目にバラツキがでないように配慮する必要があると考えられる。

設問4（オフィスアワー）については、基本的にこれまでと同じ傾向が示された。「1回」あるいは「利用しなかった」と回答した学生の割合が70%程度であるのはこれまでと同じ傾向である。ただし、多くの学生は授業の終わりや個別にアポイントをとって質問等を行っているのが実態であり、オフィスアワーの利用の少なさが直ちに問題になるとは考えていない。他方、オフィスアワーを3回以上利用した学生の割合も20%を超えており、オフィスアワーを設定することそれ自体は一部の学生にとっては非常に有用であるといえる。

設問5（個人面談）については、これまでと同様「役に立った」と「まあまあ役に立った」の合計が74%程度であり、その効果が高いことが示唆される。ただし、「あまり役に立たなかった」と「役に立たなかった」の合計も18%程度あり、個々の学生の進路・学習状況に応じて、面談の内容を工夫する必要があることを示している。

設問6（GPAによる評価）では、「適切である」と「ほぼ適切である」の合計が、55%程度であり、一定程度の納得が得られていると解釈できる。ただし、「適切である」と回答した学生の2016年度の割合は11%程度であり、2015年度の33%または2014年度の52%と比較すると、低い水準といえる。そのため、担当教員においては成績管理の方針がいま一度適切であるか否かを見直す必要があるといえる。全体としてGPAは学生目線から見ても概ね問題がないと判断されているものの、その信頼性を維持するためにも今後も適切に成績管理を行う必要があると考えられる。

設問7（受験勉強にかける時間）では、1日に平均して5時間以上受験勉強を行う学生の割合が56%程度と、高い水準にあることがわかる。2015年度も半数近くが5時間以上を受験勉強に割いており、直近2年では、それ以前に比べて、意欲的に受験勉強に取り組む学生の割合が多いことがわかる。

設問8（email、WEBを用いた連絡システム）については、「役に立った」と「まあまあ役に立った」の合計が89%程度であり、現行の連絡システムで問題がないものと考えられる。

設問9（在学中の受験）では、在学中の受験を「考えている」と回答した学生の割合は63%程度であることがわかる。これは2015年度とほぼ同水準である。他方、在学中の受験を「考えていない」と回答した学生の割合も37%程度あり、進路選択が多様化していることを示している。我々も学生のニーズを汲み取り、より充実したカリキュラムを設計する必要がある。

### 3.4. 新規科目の提案ならびに自由記述欄について

開講してほしい科目に関しては、IT分野の科目や個別論点に関する会計科目（連結会計、内部監査、BATIC関係など）への要望があった。予算的制約もあり、全てを開講することはできないが、今後の検討材料としたと思う。

また、自由記述欄では、公認会計士試験に直結する授業科目の増加を求める声があった。会計大学院は高度な職業会計人の育成を目的とするため、個々の授業は公認会計士試験に直結する内容というよりも、中・長期的なキャリア形成に役立つ内容になる傾向にある。今後もこの方針に大きく変わりはないものと思われるが、公認会計士試験の在学中合格を目指す学生が増えていることを踏まえれば、上述のような意見があることも理解できる。継続的に個々の授業科目の内容を見直すなど、対応できる部分があれば検討したいと考えている。

#### 4. 「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

##### 4.1. アンケートの実施状況

「会計大学院の授業に関するアンケート」は、前述の通り、履修者が5名以上である授業及び担当教員からの希望があった21科目について実施している。アンケート実施科目と履修者・アンケート回収数をまとめると次のようになる。

授業科目名	履修者数	回収数
監査3	7	6
事例研究（法人税法）	5	4
原価計算2	14	12
簿記2	15	15
情報システム設計	11	10
監査計画の編成法1	8	6
内部統制の実務	10	6
財務諸表分析	9	9
企業評価	8	8
ワークショップb	8	9
ビジネス・プレゼンテーション1	5	4
ビジネス・プレゼンテーション2	11	9
監査2	16	7
国際監査	12	8
経営戦略	5	5
管理会計1	19	17
財務会計2	13	12
事例研究（会計職業倫理）	5	5
IFRS 1	12	11
コーポレートファイナンス	8	5
消費税法	2	1
合計	203	169

「履修者数」は履修登録を行った学生数であり、「回収数」は履修登録を行わず聴講している学生も含んでいる。

表1：アンケート実施科目と回収数

今回のアンケートでは、のべ履修者数203名に対して169名から回答を得た。アンケートの回答率は83.25%であり、この種のアンケートとしては高い水準にあり、結果の信頼性は高いと考えられる。なお、質問項目17は科目担当教員が独自に設定できる質問であり、アンケートの集計には含めていない。

#### 4.2. アンケートに関する基本統計量

各設問の選択肢に付与された数字は、好ましい回答ほどその値が大きくなるよう設定されているため（設問1を除く）、この数値化によって回答の平均値、中央値、最頻値の算出を行った。あわせて、参考のため標準偏差も計算した。その結果は以下の通りである。なお、アンケートの内容については資料2を参照されたい。

項目\設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
5	54	119	12	14	31	57	111	128	124	118	120	108	131	91	122	69
4	82	31	2	2	12	78	45	31	37	36	38	41	31	34	35	0
3	20	11	12	19	15	27	9	5	3	12	9	17	4	21	8	50
2	10	3	28	21	20	3	2	1	3	0	0	0	0	5	2	0
1	0	5	48	62	51	4	2	3	2	3	2	3	3	14	2	36
0	2	-	67	50	40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	168	169	169	168	169	169	169	168	169	169	169	169	169	165	169	155
平均値	4.04	4.51	1.23	1.42	2.01	4.07	4.54	4.67	4.64	4.57	4.62	4.49	4.70	4.11	4.62	3.43
中央値	4	5	1	1	1	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3
最頻値	4	5	0	1	1	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
標準偏差	0.93	0.92	1.43	1.46	1.81	0.88	0.75	0.73	0.72	0.77	0.70	0.81	0.69	1.28	0.74	1.64

表2：アンケートの基本統計量

この結果を踏まえると、設問3（予習）、設問4（復習）、設問5（宿題）、設問16（資格）以外は、平均値が概ね4以上であり、中央値や最頻値も4か5である。この傾向は過去数年と大きな違いはなく、会計大学の講義に対する評価はこれまでと変わらず良好であると言ってよいだろう。ただし、授業の予習、復習、宿題にかかる時間はあまり多くないのが現状である。具体的には、設問3（予習）、設問4（復習）、設問5（宿題）に回答した学生のうちの半数以上が2時間以下しか学習時間を確保していない。これは過年度の傾向と同様であり、継続的にこれに対処する方法を模索する必要がある。全体として、学生の各講義に対する評価は高い水準にあるといえるものの、予習・復習・宿題にかかる時間を一定数確保するように授業を設計する必要があるといえる。

#### 4.3. 各設問間の相関

質問項目間の相関関係をみるために、表3を作成した。なお、0.50以上の相関係数については太字にしている。設問16の資格については、より高い資格であるほど高いスコアとなるようになっている。

設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
1 属性	1															
2 出席	-0.085	1														
3 予習	-0.284	0.067	1													
4 復習	-0.156	0.140	<b>0.676</b>	1												
5 宿題	-0.025	0.009	<b>0.433</b>	<b>0.499</b>	1											
6 理解	-0.112	0.284	0.147	0.103	0.085	1										
7 難易度	-0.087	0.262	0.103	0.132	0.019	0.503	1									
8 教員準備	0.024	0.308	0.168	0.197	0.171	0.423	<b>0.591</b>	1								
9 プレゼン	-0.025	0.242	0.115	0.081	0.225	0.284	<b>0.358</b>	<b>0.580</b>	1							
10 教材	-0.045	0.292	0.207	0.196	0.103	0.383	<b>0.611</b>	<b>0.579</b>	<b>0.549</b>	1						
11 評価方法	-0.034	0.287	0.124	0.135	0.133	0.401	0.619	0.664	0.562	<b>0.733</b>	1					
12 シラバス	-0.054	0.228	0.097	0.104	0.163	0.397	0.514	0.480	0.569	<b>0.562</b>	0.627	1				
13 教員評価	-0.057	0.360	0.089	0.122	0.168	0.368	<b>0.558</b>	<b>0.664</b>	<b>0.564</b>	<b>0.604</b>	<b>0.628</b>	0.547	1			
14 対試験	0.052	0.310	-0.033	0.146	0.124	0.482	0.474	0.449	0.248	0.362	0.352	0.392	0.396	1		
15 キャリア	-0.015	0.223	0.197	0.201	0.201	0.424	0.632	0.666	0.402	0.614	0.673	0.517	0.659	0.389	1	
16 資格	0.270	0.054	-0.024	-0.070	0.022	0.070	0.064	0.080	0.083	0.023	0.085	-0.053	0.042	0.033	0.023	1

表3：質問項目間の相関関係

過年度と同様に、設問3（予習）と設問4（復習）の間で比較的高い正の相関が見られる。これらの設問は学生の会計大学院の授業に関連する勉強時間についてのもので、予習等をよく行う学生は復習等もよく行うことを示している。

ここでは、学生の理解度（設問6）、授業の難易度（設問7）及び教員の評価（設問13）について検討したい。学生の理解度（設問6）については、授業の難易度（設問7）と高い相関関係を持ち、難易度を適切に設定している授業ほど学生の理解度が高くなることが示唆される。また、授業の難易度（設問7）は、学生の理解度（設問6）のほか、教員の準備（設問8）、教材（設問10）、評価方法（設問11）、シラバス（設問12）、教員評価（設問13）、キャリア（設問15）と高い相関関係を有する。教員の準備、教材、評価方法、シラバス等などが含まれることから、シラバス等において事前にきめ細かく授業設計を行うことが授業の難易度の適切な管理につながっていることが示唆される。さらに、教員の評価（設問13）については、授業の難易度（設問7）、教員の準備（設問8）、教員のプレゼン（設問9）、教材（設問10）、評価方法（設問11）、シラバス（設問12）、キャリア（設問15）と高い相関関係を有する。これを踏まえると、授業の難易度を適切に管理することは、教員の評価にも繋がっていることが推測される。ただし、教員のプレゼンとも高い相関関係を有することから、授業の難易度の管理だけでなく、授業における説明の方法等も影響することは言うまでもない。その他、キャリア（設問15）が含まれるものの、対試験（設問14）が含まれないことから、公認会計士を受験する上で直接的に役立つ授業内容よりも将来のキャリアにおいて役立つ授業内容の方が教員の評価が高くなる傾向にあるといえる。

なお、こうした傾向は過去と同様のものである。上記の表については過去の報告書でも報告されている。過去の報告書については、会計大学院のWEBサイトを参照されたい（<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/keiji2017a.html>）。

#### 4.4. 設問ごとの集計結果と所見（自己評価）

以下では、それぞれの設問についての集計結果と過去4年間の推移を示し、各々所見を示す。なお、アンケート全項目の集計結果については巻末資料4を参照されたい。

##### 設問1：該当するものを選んでください（受講者属性）

選択項目	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期
公認会計士コース（2年）	49.34%	34.29%	38.24%	29.84%	33.47%	35.82%	31.28%	32.14%
公認会計士コース（1年）	41.69%	51.07%	40.44%	54.84%	52.99%	52.24%	55.38%	48.81%
会計リサーチコース	7.39%	8.93%	15.07%	10.08%	7.97%	9.45%	11.28%	11.90%
経済経営学専攻	1.06%	3.57%	2.57%	1.61%	2.39%	2.49%	0.51%	5.95%
経済学部	0.53%	2.14%	1.84%	2.02%	1.59%	0.00%	1.54%	0.00%
その他	0.00%	0.00%	1.84%	1.61%	0.00%	0.00%	0.00%	1.19%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	379	280	272	248	251	201	195	168

受講者属性に大きな傾向の変化はなかった。

##### 設問2：この講義にどのくらい出席しましたか。

選択項目	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期
90%以上	69.35%	71.84%	88.55%	85.37%	88.26%	86.87%	88.48%	70.41%
89-70%	18.55%	12.64%	6.87%	8.54%	8.50%	8.08%	4.19%	18.34%
69-50%	4.84%	9.75%	2.67%	2.85%	0.81%	3.03%	1.57%	6.51%
49-20%	4.03%	3.25%	0.38%	1.22%	0.40%	2.02%	2.09%	1.78%
20%未満	3.23%	2.53%	1.53%	2.03%	2.02%	0.00%	3.66%	2.96%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	372	279	262	246	247	198	191	169

2014年以降の高出席率の傾向が持続していたが、2016年度後期については90%以上出席した割合が7割程度と比較的低い水準にとどまった。各担当教員は出席率が低下する学生がいないか継続的に管理する必要があるといえよう。

以下、設問3から設問5は、学生の時間外での学習に係る設問であることからまとめて検討する。

##### 設問3：この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期
5時間以上	5.84%	7.17%	4.10%	8.87%	7.60%	10.40%	2.05%	7.10%
4-5時間	4.24%	5.38%	2.61%	5.65%	0.80%	2.48%	2.56%	1.18%
3-4時間	6.63%	9.32%	4.85%	5.24%	2.80%	2.97%	5.64%	7.10%
2-3時間	14.32%	14.70%	14.93%	12.10%	10.00%	13.37%	11.28%	16.57%
1-2時間	35.54%	34.41%	32.46%	31.05%	38.00%	41.58%	34.87%	28.40%
1時間未満	33.42%	29.03%	41.04%	37.10%	40.80%	29.21%	43.59%	39.64%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	377	279	268	248	250	202	195	169

##### 設問4：この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期
5時間以上	5.85%	6.05%	5.20%	8.84%	8.03%	8.04%	7.73%	8.33%
4-5時間	3.46%	4.63%	2.60%	5.62%	2.01%	2.01%	2.06%	1.19%
3-4時間	6.65%	10.68%	5.95%	7.23%	3.61%	5.53%	6.19%	11.31%
2-3時間	19.15%	17.79%	18.22%	12.85%	17.67%	13.57%	11.34%	12.50%
1-2時間	39.63%	38.79%	39.03%	36.14%	42.57%	46.23%	38.66%	36.90%
1時間未満	25.27%	22.06%	29.00%	29.32%	26.10%	24.62%	34.02%	29.76%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	376	281	269	249	249	202	194	168

設問5：この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期
5時間以上	9.07%	23.38%	10.37%	16.05%	10.08%	20.00%	8.25%	18.34%
4-5時間	7.73%	5.40%	5.19%	10.70%	0.81%	6.50%	5.67%	7.10%
3-4時間	16.27%	13.67%	9.63%	11.93%	10.48%	7.00%	5.67%	8.88%
2-3時間	22.40%	20.50%	22.96%	11.11%	18.15%	11.50%	19.07%	11.83%
1-2時間	27.73%	19.42%	29.26%	23.87%	31.45%	33.50%	30.41%	30.18%
1時間未満	16.80%	17.63%	22.59%	26.34%	29.03%	21.50%	30.93%	23.67%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	375	278	270	243	248	201	194	169

既に指摘したように、設問3から設問5に回答した学生のうちの半数以上が2時間以下しか学習時間を確保していない点には注意が必要である。これは過年度の傾向と同様であるため、学習時間の確保は担当教員にとって継続的な課題であるといえる。ただし、予習、復習、宿題のいずれに重点を置くかは科目の特性に依存するところであろう。例えば、少人数科目では、次回の講義での報告（予習ないし宿題）に重点が置かれるであろうし、講義系の科目では、小テスト等が頻繁に実施されることから、復習に重点が置かれるであろう。実際、設問5（宿題）については5時間以上と回答した学生の割合は前期10%程度に対して、後期20%程度となっている。これは前期よりも後期の方が宿題を課す授業があることを反映していると考えられる。いずれにしても担当教員は科目の特性に応じた適切な学習時間の確保に継続的に努める必要がある。

設問6：この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。

選択項目	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期
理解できた	37.57%	42.29%	37.55%	38.15%	38.25%	36.14%	24.10%	33.73%
ほぼ理解できた	40.48%	38.71%	42.01%	46.99%	37.85%	44.55%	49.74%	46.15%
どちらともいえない	18.52%	14.70%	17.47%	12.45%	20.72%	16.34%	21.54%	15.98%
あまり理解できなかった	2.65%	3.23%	2.97%	2.41%	2.39%	2.48%	3.59%	1.78%
理解できなかった	0.79%	1.08%	0.00%	0.00%	0.80%	0.50%	1.03%	2.37%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	378	279	269	249	251	201	195	169

講義内容を「理解できた」または「ほぼ理解できた」と回答した学生の割合は、変化はなく概ね8割程度となっており、講義内容を理解できた学生の割合が大半を占めることがわかる。前年度に引き続き高い水準であり、この水準を維持する必要があると考えられる。

設問7：この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。

選択項目	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期
適切	65.87%	68.21%	75.00%	76.71%	68.13%	69.50%	63.59%	65.68%
ほぼ適切	23.81%	23.21%	19.40%	16.47%	23.51%	24.00%	25.13%	26.63%
どちらともいえない	8.73%	7.14%	4.85%	6.43%	7.57%	4.50%	10.77%	5.33%
やや不適切	1.32%	0.71%	0.75%	0.40%	0.80%	1.50%	0.00%	1.18%
不適切	0.26%	0.71%	0.00%	0.00%	0.00%	0.50%	0.51%	1.18%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	378	280	268	249	251	201	195	169

難易度が「適切」または「ほぼ適切」と回答した学生の割合は9割を超えており、学生目線としては会計大学院としての講義の適切性が高いと認識されている。

設問 8：教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。

選択項目	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期
十分	73.47%	80.29%	80.44%	86.35%	81.67%	80.60%	73.58%	76.19%
ほぼ十分	20.42%	16.85%	13.28%	10.44%	10.76%	12.94%	18.65%	18.45%
どちらともいえない	5.57%	2.51%	5.17%	2.01%	5.18%	3.98%	5.70%	2.98%
やや不十分	0.27%	0.36%	0.74%	0.40%	1.20%	0.50%	1.04%	0.60%
不十分	0.27%	0.00%	0.37%	0.80%	1.20%	1.99%	1.04%	1.79%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	377	279	271	249	251	201	193	168

教員の準備が「十分」または「ほぼ十分」と回答した学生の割合は9割を超えており、これまでと同様に非常に高い水準にあると考えられる。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 9：教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良かったですか。

選択項目	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期
良かった	76.72%	79.21%	77.78%	85.54%	76.10%	77.11%	69.74%	73.37%
まあまあ良かった	16.67%	15.77%	15.93%	11.65%	15.54%	16.92%	23.08%	21.89%
どちらともいえない	5.82%	5.02%	3.70%	2.41%	4.78%	3.98%	4.10%	1.78%
やや悪かった	0.53%	0.00%	1.48%	0.00%	1.99%	1.49%	2.05%	1.78%
悪かった	0.26%	0.00%	1.11%	0.40%	1.59%	0.50%	1.03%	1.18%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	378	279	270	249	251	201	195	169

教員のプレゼンテーションが「良かった」または「まあまあ良かった」と回答した学生は9割程度であり、前年度と同様に高い水準にあると考えられる。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 10：テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。

選択項目	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期
適切	68.78%	78.21%	71.96%	82.33%	70.52%	74.63%	69.23%	69.82%
ほぼ適切	21.96%	16.79%	18.08%	14.86%	19.52%	19.90%	16.92%	21.30%
どちらともいえない	7.14%	5.00%	8.12%	2.41%	7.57%	3.48%	11.79%	7.10%
やや不適切	1.85%	0.00%	0.74%	0.40%	0.80%	0.50%	0.51%	0.00%
不適切	0.26%	0.00%	1.11%	0.00%	1.59%	1.49%	1.54%	1.78%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	378	280	271	249	251	201	195	169

テキスト等が「適切」または「ほぼ適切」と回答した学生の割合は9割程度であり、前年度と同様に高い水準にある。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 11：この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか。

選択項目	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期
適切	66.14%	76.43%	74.07%	79.52%	76.49%	82.59%	73.33%	71.01%
ほぼ適切	25.93%	15.36%	18.15%	15.66%	19.12%	14.43%	14.87%	22.49%
どちらともいえない	7.14%	7.14%	5.19%	3.61%	3.98%	1.99%	10.26%	5.33%
やや不適切	0.53%	1.07%	1.85%	1.20%	0.00%	0.50%	0.00%	0.00%
不適切	0.26%	0.00%	0.74%	0.00%	0.40%	0.50%	1.54%	1.18%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	378	280	270	249	251	201	195	169

成績評価の方法が「適切」または「ほぼ適切」と回答した学生の割合は9割程度であり、前年度と同様に高い水準にある。成績評価はGPAによる評価の基礎となっており、適切に行う必要があることは言うまでもないが、学生が納得しているかも重要である。ほとんどの学生は適切に成績評価が行われていると感じており、今後もこれを維持する必要があると思われる。

設問 12：この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。

選択項目	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期
役に立った	57.41%	67.50%	67.16%	72.18%	68.92%	66.67%	60.51%	63.91%
まあまあ役に立った	31.48%	22.14%	18.45%	20.56%	21.12%	24.88%	22.05%	24.26%
どちらともいえない	8.99%	9.64%	9.96%	5.65%	8.76%	7.96%	14.87%	10.06%
あまり役に立たなかった	1.32%	0.71%	1.48%	0.81%	0.80%	0.00%	0.51%	0.00%
役に立たなかった	0.79%	0.00%	2.95%	0.81%	0.40%	0.50%	2.05%	1.78%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	378	280	271	248	251	201	195	169

シラバスが「役に立った」または「まあまあ役に立った」と回答した学生の割合は 8～9 割程度であり、前年度と同様に高い水準を維持している。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 13：総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか。

選択項目	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期
評価できる	72.22%	77.14%	77.49%	83.53%	76.49%	80.10%	71.28%	77.51%
まあまあ評価できる	22.22%	19.64%	16.61%	13.65%	18.73%	14.43%	19.49%	18.34%
どちらともいえない	4.76%	2.86%	3.32%	1.61%	1.59%	3.98%	7.69%	2.37%
あまり評価できない	0.79%	0.36%	1.11%	0.40%	1.99%	0.50%	0.51%	0.00%
評価できない	0.00%	0.00%	1.48%	0.80%	1.20%	1.00%	1.03%	1.78%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	378	280	271	249	251	201	195	169

教員のパフォーマンスを「評価できる」または「まあまあ評価できる」とした学生の割合は 9 割程度であり、前年度と同様に高い水準を維持している。総合的に教員に対する学生からの満足度は高いと考えられるため、今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 14：この講義は公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか。

選択項目	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期
役立つ	52.25%	54.64%	61.94%	62.35%	57.37%	59.70%	53.09%	55.15%
まあまあ役に立つ	25.20%	23.93%	20.90%	15.38%	18.73%	15.42%	21.13%	20.61%
どちらともいえない	15.38%	14.29%	11.19%	14.98%	16.33%	13.93%	16.49%	12.73%
あまり役に立たない	3.45%	3.21%	3.36%	4.86%	3.19%	6.47%	2.58%	3.03%
役に立たない	3.71%	3.93%	2.61%	2.43%	4.38%	4.48%	6.70%	8.48%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	377	280	268	247	251	201	194	165

公認会計士試験の受験に「役立つ」または「まあまあ役立つ」と回答した学生の割合は 7 割強の水準にあった。会計大学院は必ずしも公認会計士試験に「直結」する科目ばかりが設定されている訳ではないことから、この程度の水準が妥当であると考えられる。

設問 15：この講義は将来のキャリアにおいて役立つと思いますか。

選択項目	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期
役立つ	58.02%	65.23%	72.01%	77.24%	70.28%	71.14%	56.54%	72.19%
まあまあ役に立つ	25.94%	25.81%	19.40%	17.48%	18.07%	23.38%	29.32%	20.71%
どちらともいえない	12.83%	6.81%	6.34%	3.25%	8.43%	4.48%	8.90%	4.73%
あまり役に立たない	2.14%	1.43%	0.75%	0.81%	2.81%	0.50%	4.71%	1.18%
役に立たない	1.07%	0.72%	1.49%	1.22%	0.40%	0.50%	0.52%	1.18%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	374	279	268	246	251	197	191	169

将来のキャリアに「役立つ」または「まあまあ役立つ」と回答した学生の割合は 9 割程度であり、前年度と同様に高い水準を維持している。今後もこの水準を維持する必要がある。

最後に、設問 16「あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい」につき、2016 年度後期の集計結果について述べる。ここでは、資格試験を 3 段階（① 日商簿記 1 級レベル以上、② 2 級レベル、③ それ以下）に分けて、どの段階の知識を有している状況にあるのかについて質問した。入試段階で一定の簿記の素養を確認しているため、学生は概ね日商簿記 2 級レベル以上の実力は有していると考えられる。ただし、本質問では、資格の有無を問うているので、必ずしも実力と連動するわけではないことに留意が必要である。

2016 年度後期では、① 45%、② 32%、③ 23% 程度であった。本年度後期については、学生の半数近くが 1 級レベル以上の知識を有しており、高度な計算能力を有していることがわかる。その一方で（先の留意点をふまえつつ）③ も 2 割程度いることから、計算能力に係る学生の実力差は大きいといえる..

#### 4.5. 自由記入欄の意見について

「会計大学院の授業に関するアンケート」に設けられた自由記入欄については、科目担当教員による対応が必要であるので、寄せられた意見はこれまで通り担当教員へ報告し、改善すべき点は改善を行うよう依頼している。

## 5. 結び

2016年度における「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」と「会計大学院の授業に関するアンケート」の集計結果等を踏まえると、2015年度に実施した大規模なカリキュラムの改訂は会計大学院の学生から概ね良好な評価を獲得しており、本会計大学院は高い教育水準を維持していると考えられる。ただし、カリキュラムの改訂前から抱えていた課題（例：授業科目に関する学習時間の確保等）の平均的な傾向は大きく変化しておらず、引き続き、個々の授業科目の運用方針を見直すなどして対応する必要がある。カリキュラムの改訂により各授業科目の位置づけを再確認したところではあるが、毎年変化する学生の傾向やニーズを教員間で共有し、担当する授業科目の内容を継続的に見直す必要があると考えられる。最後になるが、アンケートに真摯に取り組んでいただいた学生各位に感謝を申し上げる。

資料1：2016年度「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」設問用紙

会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート（2016年度後期）

このアンケートは、学生諸君の意見を会計大学院のカリキュラム改善に役立てることを目的として行うものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2年） (2) 経済経営学専攻 (4) 公認会計士コース（1年） (1) 経済学部 (3) 会計リサーチコース (0) その他

カリキュラムについて

番号	質問	回答
2	基礎、展開、実践・応用科目（注）の配置は適切だと思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
3	セメスター間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
4	オフィスマナーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数についてお答えください。	(5) 5回以上 (2) 1回 (4) 4回または3回 (1) 利用しなかった (3) 2回
5	セメスター開始時に行われる個人面談は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (2) あまり役に立たなかった (4) まあまあ役に立った (1) 役に立たなかった (3) どちらともいえない
6	成績評価に用いているGPAは、学生個々の能力を適切に評価できると思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
7	講義の予習・復習・宿題以外に、公認会計士試験のための自主学習には1日平均何時間くらい時間を掛けていますか？	(5) 5時間以上 (2) 1-3時間 (4) 4-5時間 (1) 1時間未満 (3) 3-4時間
8	本大学院では、学生への連絡・掲示媒体としてe-mail、HPを用いていますが、このシステムは役に立ちましたか？	(5) 役に立った (2) あまり役に立たなかった (4) まあまあ役に立った (1) 役に立たなかった (3) どちらともいえない
9	在学中に公認会計士試験を受験しようと考えていますか？	(5) 考えている (4) まだ決めていない (3) 考えていない
10	会計大学院OB会を組織したいと考えています。OB会創設に関してご意見をお聞かせ下さい。	(5) 賛成 (4) 反対 (3) 分からない 《特にご意見のある方は、自由記入欄へご記入下さい。》
11	今後、新たに開設すべき科目がありますか？	自由記入欄に3つ以内で回答して下さい。

(注) 科目分類については裏面を参照して下さい。

基礎科目：各科目領域（会計・経済と経営・ITと統計・法と倫理）を学ぶ上で基礎となる内容を学習する。

展開科目：基礎科目の理解を前提とし、より高度な内容を学習する。

実践・応用科目：基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

資料 2：2016 年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」設問用紙

会計大学院の授業に関するアンケート（2016 年度後期）

このアンケートは会計大学院の授業改善に学生諸君の意見を反映するためのものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

授業科目名はマークシート用紙に記入されていますので御確認下さい。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2 年） (4) 公認会計士コース（1 年） (3) 会計リサーチコース (2) 経済経営学専攻 (1) 経済学部 (0) その他

科目内容について

番号	質問	回答	備考
2	この講義にどのくらい出席しましたか？	(5) 90% 以上 (4) 89-70% (3) 69-50% (2) 49-20% (1) 20% 未満	おおよその出席率で回答して下さい。
3	この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5 時間以上 (4) 4-5 時間 (3) 3-4 時間 (2) 2-3 時間 (1) 1-2 時間 (0) 1 時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
4	この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5 時間以上 (4) 4-5 時間 (3) 3-4 時間 (2) 2-3 時間 (1) 1-2 時間 (0) 1 時間未満	宿題に掛けた時間を含めずに回答して下さい。
5	この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5 時間以上 (4) 4-5 時間 (3) 3-4 時間 (2) 2-3 時間 (1) 1-2 時間 (0) 1 時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
6	この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか？	(5) 理解できた (4) ほぼ理解できた (3) どちらともいえない (2) あまり理解できなかった (1) 理解できなかった	
7	この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	この講義が基礎、展開、実践・応用科目（注）の何れに属しているか（マークシートに記載）を考慮して回答して下さい。

（注）実践・応用科目は基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

番号	質問	回答	備考
8	教員のこの講義に対する準備は十分でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	
9	教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	板書・プロジェクター等の利用も考慮して回答して下さい。
10	テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	
11	この講義の成績評価の方法は適切であると思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	シラバスに記載されている成績評価を考慮して回答して下さい。
12	この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった	講義を選択する際に役立ったかという点も考慮して回答して下さい。
13	総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか？	(5) 評価できる (4) まあまあ評価できる (3) どちらともいえない (2) あまり評価できない (1) 評価できない	
14	この講義は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
15	この講義は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
16	あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5) 税理士会計科目 or 公認会計士 短答式・論文集 or 日商簿記1級 (3) 日商簿記2級 (1) 上記について無し	(5) と (3) の両者に該当する方は、(5) のみ回答してください。
17	《講義担当教員による質問》	(5), (4), (3), (2), (1)	担当教員による質問があれば回答して下さい。
18	《自由記入欄》	授業の感想、担当教員への要望、また本アンケートの各質問に関連した更なる意見等を、マークシート添付の用紙に自由に記入して下さい。	

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

資料3：2016年度「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 回答者属性	公認会計士コース(2年)	9	33.33%
	公認会計士コース(1年)	14	51.85%
	会計リサーチコース	4	14.81%
	経済経営学専攻	0	0.00%
	経済学部	0	0.00%
	その他	0	0.00%
	合計	27	100.00%
設問2 基礎, 展開, 実践・応用科目の配置は適切だと思いますか.	適切である	12	44.44%
	ほぼ適切である	11	40.74%
	どちらともいえない	3	11.11%
	やや不適切である	0	0.00%
	不適切である	1	3.70%
	合計	27	100.00%
設問3 Semester間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか.	適切である	10	37.04%
	ほぼ適切である	10	37.04%
	どちらともいえない	4	14.81%
	やや不適切である	2	7.41%
	不適切である	1	3.70%
	合計	27	100.00%
設問4 オフィスアワーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数.	5回以上	5	18.52%
	4回または3回	1	3.70%
	2回	2	7.41%
	1回	5	18.52%
	利用しなかった	14	51.85%
	合計	27	100.00%
	設問5 Semester開始時の個人面談は, 学習計画を立てる上で役に立ちましたか.	役に立った	11
まあまあ役に立った		9	33.33%
どちらともいえない		2	7.41%
あまり役に立たなかった		3	11.11%
役に立たなかった		2	7.41%
合計		27	100.00%
設問6 GPAによって学生の能力を適切に評価できると思えますか.	適切である	3	11.11%
	ほぼ適切である	12	44.44%
	どちらともいえない	5	18.52%
	やや不適切である	4	14.81%
	不適切である	3	11.11%
	合計	27	100.00%
設問7 受験のための自主学習には1日平均何時間くらいかけていますか.	5時間以上	15	55.56%
	4-5時間	3	11.11%
	3-4時間	2	7.41%
	1-3時間	0	0.00%
	1時間未満	7	25.93%
	合計	27	100.00%
設問8 e-mail, HPを用いた連絡システムは役に立ちましたか.	役に立った	20	74.07%
	まあまあ役に立った	4	14.81%
	どちらともいえない	1	3.70%
	あまり役に立たなかった	1	3.70%
	役に立たなかった	1	3.70%
	合計	27	100.00%
設問9 在学中の受験を考えていますか.	考えている	16	59.26%
	まだ決めていない	1	3.70%
	考えていない	10	37.04%
	合計	27	100.00%
設問10 OB会について	賛成	21	80.77%
	反対	1	3.85%
	分からない	4	15.38%
	合計	26	100.00%

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります.

資料4：2016年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合		選択項目	人数	割合
設問1 あなたの専攻・コース(学年)について、該当するものを選んで下さい。	公認会計士コース(2年)	54	32.14%	設問9 教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか。	十分	124	73.37%
	公認会計士コース(1年)	82	48.81%		ほぼ十分	37	21.89%
	会計リサーチコース	20	11.90%		どちらともいえない	3	1.78%
	経済経営学専攻	10	5.95%		やや不十分	3	1.78%
	経済学部	0	0.00%		不十分	2	1.18%
	その他	2	1.19%		合計	169	100.00%
合計		168	100.00%	設問10 テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。	適切	118	69.82%
設問2 この講義にどのくらい出席しましたか。	90%以上	119	70.41%		ほぼ適切	36	21.30%
	89-70%	31	18.34%		どちらともいえない	12	7.10%
	69-50%	11	6.51%		やや不適切	0	0.00%
	49-20%	3	1.78%		不適切	3	1.78%
	20%未満	5	2.96%	合計	169	100.00%	
合計		169	100.00%	設問11 この講義の成績評価の方法は適切であると思いますか。	適切	120	71.01%
設問3 この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	12	7.10%		ほぼ適切	38	22.49%
	4-5時間	2	1.18%		どちらともいえない	9	5.33%
	3-4時間	12	7.10%		やや不適切	0	0.00%
	2-3時間	28	16.57%	不適切	2	1.18%	
	1-2時間	48	28.40%	合計	169	100.00%	
	1時間未満	67	39.64%	合計	169	100.00%	
合計		169	100.00%	設問12 この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。	役に立った	108	63.91%
設問4 この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	14	8.33%		まあまあ役に立った	41	24.26%
	4-5時間	2	1.19%		どちらともいえない	17	10.06%
	3-4時間	19	11.31%		あまり役に立たなかった	0	0.00%
	2-3時間	21	12.50%	役に立たなかった	3	1.78%	
	1-2時間	62	36.90%	合計	169	100.00%	
	1時間未満	50	29.76%	合計	169	100.00%	
合計		168	100.00%	設問13 総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか。	評価できる	131	77.51%
設問5 この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	31	18.34%		まあまあ評価できる	31	18.34%
	4-5時間	12	7.10%		どちらともいえない	4	2.37%
	3-4時間	15	8.88%		あまり評価できない	0	0.00%
	2-3時間	20	11.83%	評価できない	3	1.78%	
	1-2時間	51	30.18%	合計	169	100.00%	
	1時間未満	40	23.67%	合計	169	100.00%	
合計		169	100.00%	設問14 この講義は公認会計士試験を受験する上で役に立つと思いますか。	役立つ	91	55.15%
設問6 この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。	理解できた	57	33.73%		まあまあ役に立つ	34	20.61%
	ほぼ理解できた	78	46.15%		どちらともいえない	21	12.73%
	どちらともいえない	27	15.98%		あまり役に立たない	5	3.03%
	あまり理解できなかった	3	1.78%	役に立たない	14	8.48%	
	理解できなかった	4	2.37%	合計	165	100.00%	
合計		169	100.00%	設問15 この講義は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか。	役立つ	122	72.19%
設問7 この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。	適切	111	65.68%		まあまあ役に立つ	35	20.71%
	ほぼ適切	45	26.63%		どちらともいえない	8	4.73%
	どちらともいえない	9	5.33%		あまり役に立たない	2	1.18%
	やや不適切	2	1.18%	役に立たない	2	1.18%	
	不適切	2	1.18%	合計	169	100.00%	
合計		169	100.00%	設問16 あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	日商簿記1級レベル以上	69	44.52%
設問8 教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。	十分	128	76.19%		日商簿記2級	50	32.26%
	ほぼ十分	31	18.45%		上記について無し	36	23.23%
	どちらともいえない	5	2.98%				
	やや不十分	1	0.60%				
	不十分	3	1.79%				
	合計	168	100.00%	合計	155	100.00%	

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります。

2016 年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長	米谷 健司
委員	青木 雅明
委員	高橋 美穂子

会計大学院アンケート実施報告書 2016 年度後期

2017 年 4 月発行

編集・発行：東北大学会計大学院ワークショップ委員会